日本共産党
島田　一徳
議員

▼教育行政・国政の動きについて

Q　国において教育委員会制度の改編が進められている。現行の教育委員会制度は堅持されるべきと思うがどうか。

A　現行の教育委員会制度は、教育の政治的中立性の確保、継続性と安定性の確保、地域住民の意向の反映を目的として導入されたものであると認識しており、この制度は堅持されるべきと考えている。

Q　教育委員会は、教員、子供、保護者、地域と密接に関わり、教育上のよき相談相手として信頼される活動を重視すべきと考えるが、現状ではその意識が希薄になっているのではないか。

A　教育委員や事務局が学校訪問を行い、課題を把握し、指導や助言を行い、円滑な学校経営を支援している。事務局もさまざまな場面で学校、家庭、地域の連携が図られるよう努めている。

Q　戦後、教師は教え子を再び戦場に送らないという崇高な誓いを立てたと聞くが、どのような視点、環境で子供たちを育てようとしているのか。

A　本市教育の目指すものとして、社会の変化に対応し、世界の平和に貢献できる調和のとれた市民の育成を掲げている。平和学習や平和集会を通して戦争は絶対に許さないという心情や世界平和に向けて行動できる児童・生徒を育てていきたい。

▼市民サービスについて

Q　ロタウィルス対策の実施を提案してきたが取り組み状況はどうか。

A　今年度から母子健康手帳にロタウィルスワクチンの接種歴の記載欄を設けている。市としても国や県内各市の動向を注視しながら検討していきたい。

Q　雲仙市、南島原市は中学卒業までの医療費負担軽減策を既に実施している。島原市でも早期に実施できないか。

A　現在、小学校就学前までの乳幼児を対象とした医療費助成制度を実施しており、県から半額の補助が交付されている。小・中学生については、県の補助対象にならないので、本市の財政状況では実施は難しいと考えている。

Q　島原鉄道の住民目線での経営改善はどのように進んでいるのか。

A　トイレのバリアフリー化や地域住民が楽しめ、島鉄に愛着をもってもらえるような各種イベント、列車命名権やつり革オーナー制度、レンタサイクルなどを実施されている。

実践クラブ
上田　義定
議員

▼建設工事入札におけるランダム化の導入について

Q　昨年四月からランダム化が導入されたが、①ランダム化を導入した経緯、②試行後一年を経過し効果はどうだったのか。

A　①透明性を高める目的で、ランダム係数を使用して、予定価格や最低制限価格を決定している。②入札執行後、落札者がある場合は、予定価格、最低制限価格、公開ランダム係数を入札会場で公表することで、透明性も高まり、適正な入札の執行が維持されている。

Q　事前ランダムはどのような方法で決定されているのか。

A　入札日以前に、事務決裁規則の専決区分に基づき、専決者がパソコンにより発生させたランダム係数を使用し、予定基本価格、最低制限基本価格を決定している。

Q　予定価格のランダム係数は、公開ランダム係数より非公開の事前ランダム係数のほうが変動幅が大きい。公開ランダム係数の変動幅が大きいほうが、より透明性が高まると考えるがどうか。

A　各市の状況を参考に再度検討したい。

Q　最低制限価格のランダム係数は、県がプラス方向に設定されているのに対し、本市はマイナス方向に設定されている。結果として、国の指針に反した歩切りと同じ数値になっていると考えられないか。

A　歩切りとは判断していないが、各市の状況を参考に今後対応したい。

▼中学校の校区について

Q　霊丘地区の中学校区は、いつから現在の校区が決められたのか。

A　島原市立小・中学校の通学区域に関する規則で、地理的状況や歴史的経緯など、各地域の実態を考慮し定められている。戦後の新制中学校の発足当時は、第一中学校は現在の農業高校の場所にあり、萩原地区等は近いということで当時、第一中学校への通学区域が定められた。校舎移転後もその校区がそのまま残っているのが現状である。

Q　第二小学校は、全て第二中学校に進学すべきと考えるがどうか。

A　現段階では見直しは考えていない。第二小学校は、二学級の適正規模を維持できる見通しがある。校区の問題が取り上げられることにより、保護者に不安等を与え、望ましい方向に向かっている現状が、逆に向かうおそれがあることを認識して取り組んでいきたい。